

授業科目名	文化芸術交流演習(200064)		
時間割名	文化芸術交流演習(22105)		
時間割担当	吉岡隆之 北村義博		
実施期	後期	単位数	1 選択
曜日・時限	火・2		

授業の目標・概要

「文化芸術交流論」での講義内容を踏まえ、実際に日本の地域社会あるいは世界各地での文化芸術交流活動に自主的に参加することを通して、感動と共に、豊かな人間性、表現力、倫理性、社会性、国際性を身につける。また、人々の心のつながりを大切に、相互に理解し尊重し合い、多様性を受け入れることができる調和的な共生社会の実現に貢献するための方策について体験的に模索する。

学習の到達目標

1. 実際に日本の地域社会あるいは世界各地での文化芸術交流活動に自主的に参加することを通して、感動と共に、豊かな人間性、表現力、倫理性、社会性、国際性を身につける。
2. 文化芸術交流活動の体験を通して、人々の心のつながりを大切に、相互に理解し尊重し合い、多様性を受け入れることができる調和的な共生社会の実現に貢献するための方策について考察する。

授業方法・形式

受講学生が一人あるいはグループで自主的に文化芸術交流活動に参加し、毎回、その活動・体験・課題等について、適宜、情報・コミュニケーション技術を活用し、体験レポートを作成する。担当教員は、適宜、学生の主体的な活動および学習を支援する。第7・8回目と14・15回目には全受講学生による合同演習（中間発表会・最終発表会）を行い、学習内容を共有するとともに情報交換や意見交換を行う。

授業計画

- 第1回 合同演習：オリエンテーション、文化芸術交流活動への参加計画
- 第2～6回 文化芸術交流活動への参加、体験レポートの作成、中間発表の準備
- 第7・8回 合同演習：中間発表会（経過報告、質疑、意見交換等）
- 第9～13回 文化芸術交流活動への参加、体験レポートの作成、最終発表の準備、最終レポートの作成
- 第14・15回 合同演習：最終発表会（最終報告、質疑、意見交換等）、まとめ

成績評価の基準

文化芸術交流活動への取組（自己学習、体験レポートなど）50%、発表会報告（中間・最終）、最終レポート50%

授業時間外の課題

受講学生が主体的に授業内容に関する課題を設定し、自己学習（復習・予習）を行う。

メッセージ

本演習の受講は原則として「文化芸術交流論」の単位を修得していることが前提となります。本演習では「文化芸術交流論」で学んだ文化芸術のもつ力とその可能性を実際に体験を通して主体的に学んでください。

教材・教科書

特定のテキストは使用せず、授業内容に関する資料等を配布する。

参考書

参考図書、参考文献等については適宜、情報を提供する。